【給食協会賞】いただきます、ごちそうさま

丈山小学校　齋藤　陽

私のクラスは給食の時間が来ると、

「今日の給食は好きなのだ。」

「やった。」

などと盛り上がります。私たちは給食が大好きです。いつも給食のこん立が楽しみで、給食の時間が待ち遠しくなります。

いよいよ給食の時間になりました。みんなが大きな声で、

「いただきます。」

と言っておいしく食べ始めます。みんなで、

「おいしいね。」

「うん。おいしい。」

と言いながら食べています。給食の時間は、みんなで会話をしながら食べる子、一人でじっくり味わいながら食べる子といろいろですが楽しいです。でも、私は一年生の時、給食当番が苦手でした。自分の番がくると、いやだな。やりたくないな。といつも思っていました。白衣に着がえて、食かんのおかずをがんばって盛り付けます。しかし、均等に盛り付けることは、なかなか上手にできません。うまくできたと思ってもまだ食かんの中におかずが残っています。

「やっぱり、給食当番ってむずかしいね。」

と言ったら友達が、

「そうだね。またがんばろう。」

と言って私をはげましてくれました。友達と仲良くなれた気がしてうれしかったです。

そして日が経っていくにつれて私は給食の盛り付けが上手にできるようになってきました。できるようになったことで、これからもがんばろうというやる気と自信がついたと思います。また、盛り付けだけでなく、配ぜんや台ふき、あいさつ係や片づけなど、給食当番をすることで、いろいろ経験できました。今では当たり前にできる食事の作法も、給食の時間に学習していたんだなと気づきました。これからも給食の時間を楽しみたいです。

私は、給食への感謝の思いが二つあります。一つ目は、給食を作る時に大変なことはよくわかりません。ですが、食かんやバットの中身が残っていたら、残菜が増え、調理員さんも悲しいと思います。なので私は苦手な物があっても、できるだけ食べて、フードロスをなくしたいです。二つ目は、安城市の給食費が無しょうなことです。私達が毎日当たり前に食べている給食は、安城市の政策のおかげで無しょうだということを知りました。これは、地元の農家さんや給食に関わる全ての方たちががんばってくれた成果なので、感謝を忘れず、しっかり食べて成長したいです。

私は、給食を通して仲間と協力することの大切さや、給食に関わる人達への感謝の気持ちに気づくことができました。いただきますごちそうさまでしたの言葉に思いをこめて、これからも大切に給食時間を過ごしたいです。